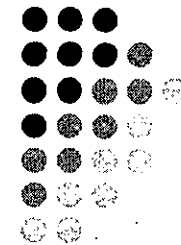


〈もやい〉の活動現場からの報告と提言 ～居場所作りを中心に～

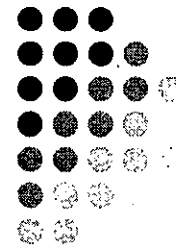
NPO法人自立生活サポートセンター・もやい

理事長 稲葉 剛

〈もやい〉設立までの経緯



- 1990年代中盤～ 東京都内各地で野宿者支援活動始まる。路上での支援が中心
- 1998年～ 生活保護受給者懇親会（新宿）
茶話会、食事会、ハイキングなど
- 2000年 自立支援センター開設
→アパートの保証人問題に関する行政交渉
- 2001年 自立生活サポートセンター・もやい設立



〈もやい〉の活動理念

貧困問題の2つの側面

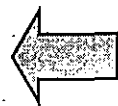
〈もやい〉の活動

経済的貧困
⇒生活基盤の破壊

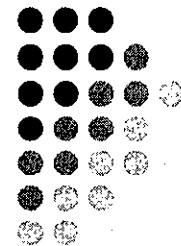


生活基盤の回復
(入居支援、生活相談)

つながりの貧困
⇒孤独、生き難さ



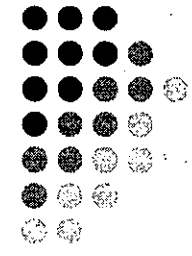
つながりと自尊心の回復
(交流サロン、コーヒー焙煎、若者・女性の居場所作り)



〈もやい〉の交流事業 その1

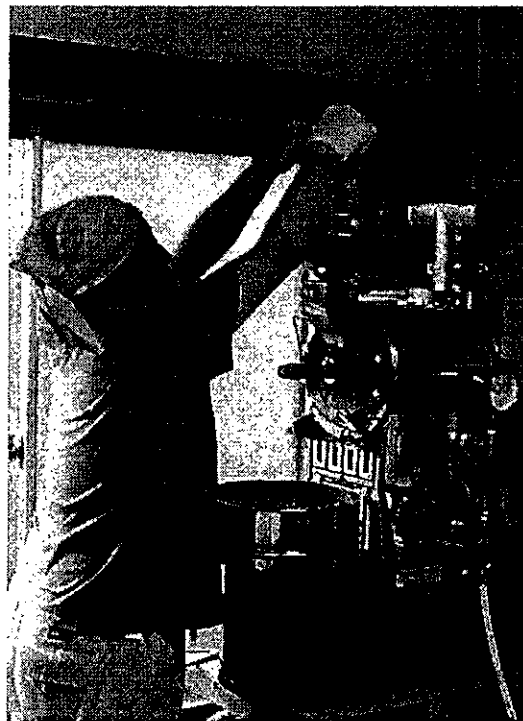
- 2004年 こもれび荘移転
「サロン・ド・カフェこもれび」
開店(毎週土曜日)

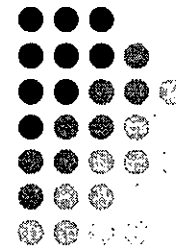




〈もやい〉の交流事業 その2

- 2005年12月～ コーヒー焙煎プロジェクト
- 2007年～ こもれびコーヒー販売

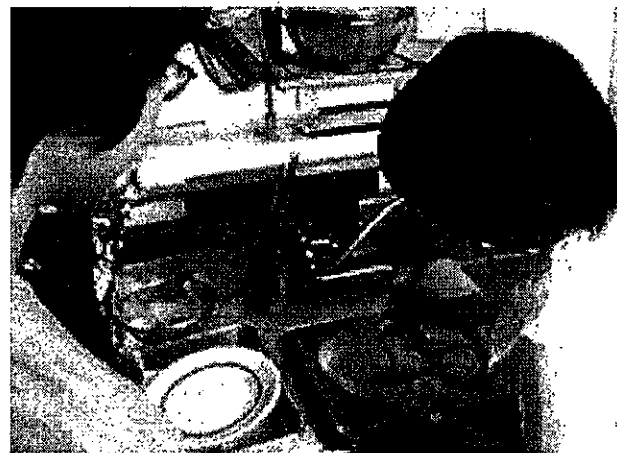




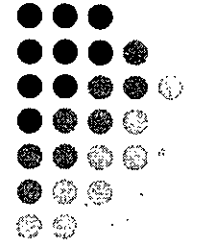
〈もやい〉の交流事業 その3

- 2006年～女性の居場所
「グリーンネックレス」開
催(月2回)
- 2007年～若者の居場所
「Drop in こもれび」開催
(月2～3回)

当事者スタッフによる実践



「居場所」の定義、役割



- 強制がない
- 「そこにいていい」と思える
- 自分のことを安全に話せる
- 自己責任論的なまなざしからの解放
- 異質な他者との出会い



自分とつながり、他者とつながりあえる場